

全支部委員長・書記長会議で中間総括!! 21春闘の悔しさを結集!

4月13日(火)秋田地本において、全支部委員長・書記長会議を開催し、大会までのたたかひの中間総括を行いました。特に21春闘については妥結結果に対する組合員からの声を集約し議論しました。

<組合員の声>

- 定期昇給は業績ではなく1年間の社員の業務成績に対する経験値。**経営状況の成果の配分という考え方になれば、55歳以上の社員にも配分は必要**だとなるため、赤字だから昇給係数2という考えはおかしいのではないのか。
- JR 発足以降積み上げてきた黒字経営を無視し、単年度の赤字で人件費に手を付けることはあまりにも厳しい。コロナ禍においても業務通常通りであり、生涯に及ぶ定期昇給を減らされてしまうのはおかしいのではないのか。
- 間合い時間で消毒したりとできることをやっても乗客が増えない。それは社会環境だから何ともできないがだから人件費を減らすというのはどうなんだろうか。**
- JR 発足以降、定期昇給の係数4以外というのは初めてのことでないか。赤字で定昇に手を付けてきたということは今後人事・賃金制度すら変わるかもしれない。議論できる体制をつくる必要があるのでは。
- 職場ではベアや定昇についてあまり話が出ない。「仕方ない」で終わっているのではないのか。
- 社員・家族の幸福の実現は利益が無いと実現しないという現われ。**守ってもらうという意識から自分たちで守っていくという意識**になっていかないと将来不安になる。
- もっと再申し入れをする等も検討するべきだった。簡単に妥結したようにも感じてしまった。
- 現状厳しい状況だというのはわかるが、具体的に何が厳しいのか、どこをどうするべきなのか明確にならないまま、施策だけ進めるように見えてならない。
- 若手からもこのままで会社は大丈夫なのか? 転職も考えないと。という声も出ている。また、ベアと定昇の違いもわからない人や「出だけいい」という声も聞こえる。やはり、**労働組合として自分の賃金を学ぶという事は必要なことだと実感した。**
- 組織力の低下が自分たちの賃金をあげることができない根本的なことではないか。JR 他社は休業しながら定期昇給満額出している。馬鹿にされているという思いもある。だからこそ組織強化・拡大が必要だ。**

改めて、春闘は生活に直結する課題であり、養育・衣食住・社会に対応するための機器の購入等、生涯賃金に関わる定期昇給(昇格係数2)という結果に対して組合員は悔しさや怒りを感じていることを確認しました。この想いをバネに組織力を高めていくため次なる運動へ繋げていくことを参加者で議論しました。

2021年4月にJR東労組本部が発行した職場討議資料の読み合せを行い、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する社会の現実を受け止め、変わりゆく社会の変化や関連する会社施策に対して、組合員全員で「雇用を守り、職場と仕事と生活を守っていく」ための運動をつくり出していくことを全体で確認しました。特に、社会の仕組みは不断に変化しても、私たちはそこで働く労働者であるということは変わることはありません。待ち受ける未来に対して「人でしかできない業務」と「安全を構築する上で必要な経験労働」を職場議論で具体的に、「JR東労組としてのチェック機能を発揮していくこと」と「会社施策において職場現実を伝えること」を発信し続けていき、改めて生活を守っていく上でもJREUplus(乗車拡大・購買拡大・組織拡大)運動を自分自身のために実践していくことを参加者全員で確認しました。

悔しさをバネに組織力を高め、将来を見据えた運動を展開していこう!!